日本語の運用　　松浦 光

※実務経験のある教員による授業科目：単位数２

授業概要

日本語のなかに多様な形で存在するレトリック現象を題材に、研究対象として日本語を取り扱うための基本的素養を身につける。この授業では、授業担当者が過去に日本語学習者に向けた日本語教師であった実績を活かして、日本語の特色を確認するとともに、語用論の観点からコミュニケーションの仕組みを講義する。そこから、実社会において、様々な場面で求められる日本語の運用について考える。

授業計画

第 1 回	言葉は喩えで満ちている―喩えることの効能（1）―
第 2 回	ぬるきミルクのような幸せ―喩えることの効能（2）―
第 3 回	船頭多くして船山に登る―喩えとことわざ―
第 4 回	メタファー・シミリー・シネクドキー―比喩についてのちょっと理論的な話（1）―
第 5 回	メトニミーとは何か―比喩についてのちょっと理論的な話（2）―
第 6 回	かんぴょう巻でも寿司は寿司―さまざまなレトリック（1）―
第 7 回	僕は僕の手から帽子を落とす―さまざまなレトリック（2）―
第 8 回	昭和な街角―悪文・誤用とレトリック―
第 9 回	間接的な言語表現とアイロニー
第 10 回	ナガシマ語とケンポーV―模擬と引喩―
第 11 回	詭弁を見抜く　詭弁を操る―弁論術とレトリック―
第 12 回	クラムボンはかぷかぷ笑ったよ―オノマトペの世界―
第 13 回	へたなしゃれはやめなしゃれ―言葉遊びとレトリック―
第 14 回	コシヒカリと夢の華―ネーミングとレトリック―
第 15 回	まとめ―日常生活のなかのレトリック―
第 16 回	レポート提出

到達目標

1．日本語の言語現象の初歩的な分析ができる。
2．日本語レトリックの基礎知識を身につけ、実際に運用することができる。

履修上の注意

遅刻・欠席はしないように。
毎回小課題を提出してもらう。

予習・復習

その日のテキストの該当箇所を予め読んでおく。
配布されたプリントを読み返す。

評価方法

毎週の課題の提出（50%）、学期末レポート(50%)

テキスト

・教科書名：『学びのエクササイズ　レトリック』
・著 者 名：森雄一
・出版社名：ひつじ書房
・出 版 年（ISBN）：２０１２年（978-4-89476-600-6）
その他にも授業資料も配布する。参考文献は教場で適宜紹介する。

日本語の運用　　田口 久美子

授業概要

「日本語の運用」という授業を通じて、社会生活における様々な場面での日本語の使い方を学ぶ。
　授業ではテキストを用い、いろいろなメール・広告・企画書などの書き方や自己アピールの仕方まで視野に入れる。毎回授業中に、様々な文書作成の課題に取り組んでもらい、その解説をおこなうことにする。社会生活において必要と考えられる実用文には、どのようなものがあるのか。それらを書くには、どのようなことに気をつけなければならないのか。実際に自分で書くことによって、身につけられるように指導する。

授業計画

第１回	ガイダンス、お知らせのメール
第２回	レストランのメニュー
第３回	問い合わせのメール
第４回	注意書きやサービス案内
第５回	お願いのメール
第６回	お店やイベントの広告
第７回	わかりやすいマニュアル
第８回	場所や交通の案内
第９回	企画や提案を出す
第 10 回	ニュースレターを作る
第 11 回	アンケート用紙を作る
第 12 回	掲示板やメーリングリストを使う
第 13 回	日本語弱者のことを考えて書く
第 14 回	レポートや論文を書く
第 15 回	自己アピールをする、まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

① 社会の様々な場面で用いられる実用文にはどのようなものがあるのか、知識を持つことができる。
② 実用文の作成にはどのようなことが大切かを学び、書くための基礎を身につけることができる。

履修上の注意

毎回授業中に文書作成の課題に取り組んでもらうので、その時間がとれなくなるような大幅な遅刻はしないように。「日本語の運用」の授業では主に実用文を扱うが、秋学期の「文章作成法」では論文・レポートについて詳しく学習するので、併せて履修することが望ましい。

予習・復習

テキストを使用するので、予習は、授業でおこなうテキスト箇所を読んでおくこと。
復習は、授業中に取り組んだ課題を見直すこと。

評価方法

学期末の筆記試験(80%)、受講態度等(20%)で評価する。

テキスト

・教科書名：『日本語を書くトレーニング』
・著 者 名：野田尚史・森口稔
・出版社名：ひつじ書房
・出 版 年（ISBN）：2003 年(2014 年・第２版)　(ISBN978-4-89476-177-3)